

OJTにおける自己学習ツールの作成とその評価



○井上千嘉・小野彩・田崎恵子・宮崎孝子・山田万里子・下川まき

背景・目的

現在弊社内では、CRC業務習得のためのツールとして、書籍や研修資料、CRC業務マニュアル、OJTの研修実施項目の規定等、資料提供が主となるものを活用している。



本研究では、それに加え実際の業務に対応した**具体的なツールを組み合わせることで、能動的かつ効率的な学習が可能となる**と考えた。

ツールを使用することにより考えられる利点

- 1) 何度も必要な文書を確認することで**知識の理解が深まり**、自信を持って業務を習得することができる
- 2) OJT指導者がOJT対象者の理解度を**客観的に評価**する契機になる
- 3) 自己学習をする形式にすることで、CRCの**スキルアップを能動的に行う**ことを可能にする。

方法

対象：OJT開始から3週間後の方5名
学習分野：以下4項目

- ・必須文書
- ・契約書等
- ・保険外併用療養費
- ・施設SOP/IRBSOP

※OJT終了後のCRCにも理解不足が指摘されることの多い文書に関する分野

形式：質問形式の確認問題 (添付資料参照)
頻度：1項目につき約50問
1日5問ずつを目安とする。

評価方法：10問のアンケート
1問につき5段階評価※
評価ポイント：ツール使用開始前、開始2週間後、1ヶ月後、3ヶ月後の計4回

※段階の数値をそのままポイントとして計算した。
5段階が増加するほど質問に対し肯定的な評価とした。

アンケート内容

- (1) これまでのOJTで、積極的に自己学習に努めることができましたか。
- (2) OJTの空き時間を有効に使うことができましたか。
- (3) これまでGCPについて何回程度確認を行いましたか。
- (4) これまでSOP (施設SOP, IRBSOP) について何回程度確認を行いましたか。
- (5) これまで契約書等 (契約書、覚書) について何回程度確認を行いましたか。
- (6) これまで保険外併用療養費に関連したレセプトや費用負担範囲を規定した文書について何回程度確認を行いましたか。
- (7) これまで必須文書 (主に統一書式を含む事務局で扱う資料等) について何回程度確認を行いましたか。
- (8) これまでのOJT期間を振り返り、GCP, SOP, 契約書、保険外併用療養費等の知識の復習を複数回に渡って行うことができましたか。
- (9) 自己学習したことで、CRC業務に自信を持てるようになりましたか。
- (10) 今後も自己学習を続けていくイメージを持っていますか。

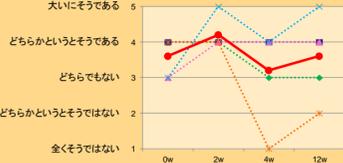
結果・考察

質問1：これまでのOJTで、積極的に自己学習に努めることができましたか。



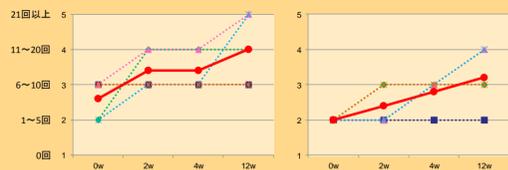
- ・4Wで一度ポイントが低下している
→ OJT開始後3カ月が経過し通常の業務を任される割合が増加したことで、ツールを実施する時間が限られた。
- ・0Wと12Wの平均ポイントの変化がなかった
→ アンケート期間を通じて自己学習へのモチベーションは比較的高いまま保たれた。

質問2：OJTの空き時間を有効に使うことができましたか。



- ・4Wの時点でポイントの平均が低下
→ 通常の業務で担う役割が増加し、空き時間自体がなくなりツールの実施速度が低下した。
- ・12Wの時点でポイントの平均が増加
→ 4W以降にはある程度自分で業務の時間配分が可能になっていると考えられる。

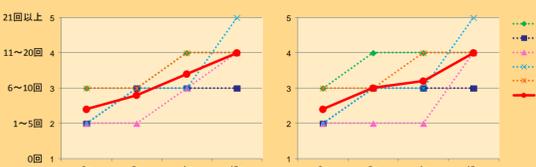
質問3：これまでGCPについて何回程度確認を行いましたか。
質問4：これまでSOP (施設SOP, IRBSOP) について何回程度確認を行いましたか。



- ・GCP, SOPを確認する回数の平均ポイントは共に増加した。

質問5：これまで契約書等 (契約書、覚書) について何回程度確認を行いましたか。

質問6：これまで保険外併用療養費に関連したレセプトや費用負担範囲を規定した文書について何回程度確認を行いましたか。



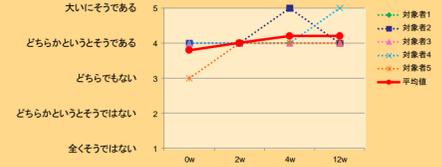
- ・契約書、費用関連文書を確認する回数の平均ポイントは共に増加した。
- ・契約書、費用関連文書共に確認回数が全ての人で増加した。

質問7：これまで必須文書 (主に統一書式を含む事務局で扱う資料等) について何回程度確認を行いましたか。



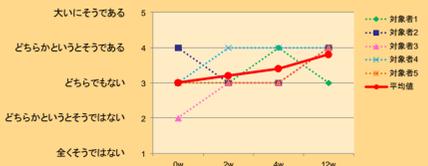
- ・必須文書の確認回数の平均ポイントは増加した。

質問8：これまでのOJT期間を振り返り、GCP, SOP, 契約書、保険外併用療養費等の知識の復習を複数回に渡って行うことができましたか。



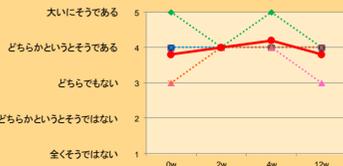
- ・平均ポイントは増加した。
- ・必要文書を複数回確認したという意識が全ての人にあった。

質問9：自己学習したことで、CRC業務に自信を持てるようになりましたか。



- ・平均ポイントは増加した。

質問10：今後も自己学習を続けていくイメージを持っていますか。



- ・今後の自己学習のイメージをつかめたかについて平均ポイントは4Wまで増加その後低下した。

まとめ

- ・全ての人が**必要文書を複数回確認したという意識があり**、また**実際に確認した回数も増加**していた。
- ・アンケート期間3カ月を通じて業務に自信を持って取り組めるようになったと考えられた。
- ・4W頃(OJT開始後2カ月後)からは通常業務で任される**仕事量が増加し、空き時間も限られたためツールに割り当てられる時間が減少**した。
- 今後の自己学習のイメージ形成に関するポイントが低下した原因と考えられる。
- ・4W時点頃から通常業務で任される業務も増え、定期的にツールを実施することが難しくなることが分かった。
- 今後は**4Wの間に全ての文書について確認を完了できるか、12Wで徐々にボリュームが減少するよう形のツールが望ましい**と考える。
- ある程度実務を学んだ後も必要な文書の確認方法を改めて復習することが重要なため、**8W, 12W等一定の期間で理解度を確認することが効果的**のではないかと推察された。
- ・自己学習をより円滑に進めるため、参考資料の確認箇所についてより丁寧に記載する必要があることが分かった。
- ・ツールの配信順序についてや実施する問題の量についてさらに検討を重ねたい。
- ・今後は、より多くの対象者にツールを実施して、ツールの実施群と非実施群に分けてアンケートを集計し、**純粋なツールによる効果を評価**できるようにしたい。